

# 第1回原子力安全検証委員会で 頂いた意見への対応状況について

平成24年10月29日

関西電力株式会社

## 第1回 原子力安全検証委員会で頂いた意見への対応状況 (1/3)

No.	テーマ区分	項目	意見	対応状況
1	原子力発電の自主的・継続的な安全への取組状況について	検証委員会への報告	自主的・継続的な安全への取組状況については、本委員会の助言等を得た後に社外へ報告する流れであるならば、社内的に監査を通じて牽制している様についても、本委員会に報告して欲しい。	原子力発電の自主的・継続的な安全への取組状況につきましては、半期毎に経営監査室による監査を実施し、その結果を検証委員会に報告する予定としておりましたが、今後、本委員会で審議の都度、監査結果についても報告いたします。
2			本検証委員会においては、個々の安全対策の実施状況ではなく、安全に関して関西電力が組織を挙げて自主的・継続的に行っている取組全体とその状況に関する報告をしてほしい。	当社は、平成16年の美浜発電所3号機事故を踏まえ、トップのコミットメントの下で、全社を挙げて安全文化を築き上げ、安全最優先の事業運営を推進してまいりましたが、福島第一原子力発電所の事故と同じような深刻な事故を二度と起こしてはならないと固く決意し、原子力安全の継続的な向上を最重要の経営方針と位置づけ、世界最高水準の安全性の達成を目指して、最大限の努力を重ねております。そのためには、事業活動の土台となる、確固たる価値観や磐石の事業基盤を強固にしていくとともに、安全・安定運転の維持・向上と地域・社会からの信頼回復に取り組んでまいります。また、これらの諸活動につきましては、規制の枠組みにとどまらず、常に世界最先端を見据えて、自主的かつ継続的にPDCAを回して進めてまいります。 本委員会においては、上記のような取組全体の下で、諸活動が実施されている状況について報告いたします。
3		30の安全対策	30の安全対策について、それぞれの取組の優先順位はどのような考え方で決定しているのか、きちんとした方針を持つておく必要がある。	30の安全対策につきましては、当社の原子力発電所に福島第一原子力発電所を襲ったような地震、津波が来襲しても、燃料損傷に至ることを防止する安全対策を優先するという方針で既に完了させ、現在は、引き続き、更なる安全性向上を目指した自主的な中期対策に取り組んでおります。これらの対策の目的やねらいを明確にすることで、安全性が向上していることがご理解いただけるよう工夫いたします。
4			対策項目(97項目)がすべて同じ重要度のように見えるが、今後これらの対策を実施し、また、その意味を理解、継承していくにあたっては、一つ一つの対策の重要度など色々な情報を付けて表記しておくことや、対策間の関係を整理することで、多重性、多様性が増していることが見えるようになっていくことが大切である。	

## 第1回 原子力安全検証委員会で頂いた意見への対応状況 (2/3)

No.	テーマ区分	項目	意見	対応状況
5	原子力発電の自主的・継続的な安全への取組状況について	世界最高水準の安全性	世界最高水準を目指すとするが、どのようなものを目指すのか、ブレークダウンして、具体化しておく必要がある。	<p>世界最高水準の安全性を目指すことは、最新知見や海外情報などを踏まえ、規制の枠組みにとどまることなく、システム全体の安全性を自主的・継続的に向上していく取組みと考えております。そのためには、課題達成型のアプローチを繰り返し実施し、満足することなく高みを目指していくことで、世界最高水準の安全性に近づくと考えております。</p> <p>特に、シビアアクシデント対策の更なる推進のために、事故調査報告書の指摘事項等も踏まえ、本年9月末、原子力事業本部に部門横断的な「シビアアクシデント対策プロジェクトチーム」を設置しております。また、電気事業連合会において年内設置で検討を進めている新たな独立組織からの更なる安全性向上対策の助言・勧告等について事業者として積極的に対応してまいります。上記のような活動を実施していくことで、世界最高水準の安全性を目指した取組みを充実、強化してまいります。</p>
6			安全性・信頼性向上に関する基準3である世界最高水準の安全性を目指していくためには、先ずは、課題や検討すべきことが何なのかなどをもう少し明確にすることが重要だと思ふ。	
7		福島第一原子力発電所事故の教訓	長時間の全交流電源喪失については、設計の想定自体が甘かったということを反省すべきではないか。想定を超えることが起こったらどうするかももちろん考えなくてはならないが、原子力発電における想定の方や想定の方や想定の方などに反省すべき事項がなかったのかということの方が重要である。このような考え方に立って、社内での原子力安全への議論を深めてほしい。	<p>世界最高水準の安全性を目指す取組みに当たっては、規制の枠組みにとどまらず、諸外国の安全性向上活動を調査、検討した上で、自主的に改善していくという観点で取組みを強化することが必要と考えております。</p> <p>ご指摘の点につきましても、長時間の全交流電源喪失が起こったこと等を重く受け止め、各種事故調査報告書で指摘されている事項やその背景要因に関しても社内で議論を深めて、当社として汲み取るべき教訓を抽出し、安全文化醸成活動に反映していくことを考えております。</p>
8			「外部電源喪失が長時間続くことを想定してこなかったということが反省事項ではないか」との指摘に対して、単に「外部電源喪失が長時間続くことを想定して対策を実施しています」という答えだけでなく、そもそも根本として、これまでの想定の方や取組みに関する反省事項があり、それらに対してどのように取り組んでいくかということを示すべきだと思ふ。	

## 第1回 原子力安全検証委員会で頂いた意見への対応状況 (3/3)

No.	テーマ区分	項目	意見	対応状況
9	安全文化醸成活動	プラント長期停止による教育・訓練への影響	プラントの長期停止によって、通常の運転操作や作業の機会が減少することを考慮して、教育や訓練が十分なものになっているかについて検討する必要があると思う。	<p>ご指摘の通り、プラントの長期停止により、プラントの起動、停止を含む運転中の操作機会や各種作業機会につきましては、減少しております。</p> <p>このため、プラントの長期停止中においても運転管理が必要となる個別機器の操作機会を活用して、特に経験が浅い若年層運転員の操作機会が極端に減少しないようにしております。</p> <p>また、プラント再起動や停止状態の維持のために、追加点検を実施する必要があり、これらの機会も有効に活用する等、様々な取組みを行っております。</p>
10		発電所毎の所員モチベーション	大飯発電所以外の職員のモチベーションの低下がないのかが気になる。発電所毎のモチベーションの違いなどを確認して欲しい。	<p>ご指摘の通り、大飯発電所3・4号機以外のプラント停止が長期化し、各発電所を取り巻く環境に違いがある中で、モチベーション維持の必要性を認識しており、様々な取組みを行っております。</p> <p>例えば、エネルギー需給率が低い我が国において、今後とも原子力が重要な電源であることには変わりはないことを明確に伝えるとともに、所員、協力会社の方々の気持ちが途切れないように、発電所内の一体感を醸成する取組みを実施しております。また、機会のあるたびに原子力を巡る情勢を情報発信・伝達しております。</p> <p>今後、安全文化評価におけるセルフチェック結果や各種アンケート結果、経営層による対話活動、職場懇談会等を通じてモチベーションの把握と維持・向上に努めてまいります。</p>